

●「教える」とは、希望を語ること。「学ぶ」とは、誠実を胸に刻むこと。(ルイ・アラゴン)

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1297 2024/07/28 (Sun)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

国民平和大行進とは、何か？

または、「私は、永遠に失望しない」(平塚らいてふ)



被爆79年目の夏が来る

毎週木曜日の事務局会議ですが、今年は岡山から、福山市(広島県)に平和行進が入ってくるその前日、重なりニュース作成が、今日(28日の日曜)になりました。

今年の通し行進者の大村恵美さんは、名刺に「歌う♪通し行進者」とあるように素敵なお声で、到着・歓迎会・出発・引継ぎとその歌声を聞かせてくださいました。同時にご自身のお子さん、無脳症で4時間ほどの命だった事。義理の祖父が、長崎での入所被爆者だったこと。この辛い体験を高校生・中学生に話をすると、「核兵器は、絶対になくさなければ、と思いました。」と手紙が届けられ、天国の我が子に、報告しているとも話をされました。改めて、平和行進とは何か？を振り返ってみます。第一回の平和行進を、調べてみました。

1958年6月20日、広島原爆記念碑の前から、8月に東京で開かれる第4回原水爆禁止世界大会をめざして日本最初の平和行進が出発しました。「広島・長崎をくりかえさせるな」の原水爆禁止の要求を訴えながら一日も休まずに歩き続けるこの行動で、通し行進者の西本あつし氏は被爆者や広島市長に見送られて被爆地広島を出発しました。第1回平和行進がおこなわれた背景には、核兵器の公然たる持ち込みを容認していた旧安保条約のもとで、原水爆禁止の世論に押されて日本政府が「協議なしには核持ち込みは認めない」と言い出す一方、アメリカは従来通り核自由持ち込みを要求して日本政府に圧力をかけ、日米安保条約の改定交渉がはじまる状況にありました。

雨の日も風の日もありました。しかし行進は日々沿道の人々の共感をひろげ、出発した当初は数名の行進者でしたが日に日に行進参加者が増え、8月15日に東京に到着するときには数人をこえる大行進となりました。沿道では小旗がふられ、ビルの窓からは紙吹雪が舞いました。この熱気と感動が第4回原水爆禁止世界大会を大きく包み、自民党の原水協からの議員引き揚げなどの妨害をはねのけて世界大会の成功をきりひらきました。この年から原水爆禁止世界大会の成功をめざす国民平和大行進として全国的にとりくまれ、その伝統を築き発展させています。(平和行進の歴史=日本原水協より)

ヒバクシャの訴えには、恨みがない。諦めがない。

「原水爆の被害者は、私を最後にしてほしい。」1954年3月1日、南太平洋ビキニ環礁でアメリカの水爆実験に遭遇し被爆したマグロ漁獲船「第五福竜丸」の無線長 久保山愛吉さんの言葉です。ヒロシマ、ナガサキに次いで三度目の原水爆の被害を受けた日本ですが、ヒバクシャの訴えは、一貫して「このような苦しみを、再び誰も味わうことが無いように」との祈りでした。そこには、加害者への恨みや、憎しみはなく、言わば人類愛と言える訴えだと思えます。

世界に被爆の実相を訴える「国際遊説団」から「核兵器禁止条約」成立まで

核軍拡競争が続いていた1985年代頃、原水協が世界に向け「国際遊説団」を派遣する運動に取り組んだとき、私は福山市原水協の事務局長になったばかりで、運動の統一と分裂策動の中、「そうなんですか」「いくら位、(募金が)必要ですか」というレベルのことしかわからないまま、イギリスへニュージーランドへと遊説団の派遣に取り組んだことを思い出します。その取り組みの基礎にあるのは、上記の人類愛でしたから、NPT再検討条約のニューヨークへの取り組みへと発展し、ついに2017年の「核兵器禁止条約」国連での成立へとつながっていることが、はっきりと分かります。日本の運動が、欧米の爆発的な大運動に比べて、地味だけれど粘り強い、そして途切れることのない運動として、続いているのは青鞥社をつくり、女性の権利を主張し続けた平塚雷鳥の「私は永遠に失望しない」にも通じる、日本の抵抗運動史的精神なのだと思います。(村井義幸)

紙面の関係で、今週の「六文銭」はお休みです。ご了承ください。